

## 令和2年度「LGBT など性的少数者に関するアンケート」 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

### 1 アンケート結果の事業等への活用状況

横浜市では、当事者支援のほか、市民向けイベントや企業向け研修など、多様な性のあり方について理解を深めるために様々な取組を行っています。今回のアンケートでは、具体的に性的少数者に関する認知度やそのイメージなど、これまで本市が行ってきた意識調査などでは何うことができていなかった内容について、ご回答や多様なご意見をいただき、参考になりました。

自由意見で「学校、職場、行政、報道、あらゆる方面で情報発信をし続けて理解する人の数を増やすしかない」とのご意見をいただきました。このようなご意見を参考にしながら、今後も「一人ひとりの市民が互いの人権を尊重しあい、共に生きる社会」の実現を目指して、市民・事業者・団体のみなさまなどに向けた啓発及び研修を実施していきます。

### 2 アンケートを実施した感想

「LGBT」の認知度を確認する Q2 から Q5 の質問において、「レズビアン (L) 及びゲイ (G)」については 9 割以上の方が認知している一方で、「バイセクシャル (B) 及びトランスジェンダー (T)」については 7 割から 8 割程度にとどまっていることから、「LGBT」の中でも認知度に差があることがわかりました。最近マスコミなどで性的少数者に関する特集も多いなか、Q6 の「性的少数者や LGBT について、あなたはそのようなイメージを持っていますか」の質問において、「身近にいないのでよく分からない」と回答した方が 3 割いたことから、LGBT などの性的少数者がまだまだ身近な存在として捉えられていないと感じました。

身近な人から「同性が好きである (Q10)」「自分の性別に違和感を持っている (Q11)」と打ち明けられたときの気持ちに関する質問について、「受け入れられない」「わからない」と回答した方が 2 割から 3 割いたことから、LGBT などの性的少数者への理解促進に向けた取組の必要性を感じました。

また、Q16 の「性的少数者への支援の取組の認知度」を確認する質問では、「市民への広報・啓発 (パネル展の開催・広報よこはまなど)」と回答された方が最も多かったことから、パネル展示や広報よこはまなどによる啓発を今後も継続して行っていくことの必要性を再認識しました。

### 3 担当部署の e アンケートメンバーへのメッセージ

この度は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

令和2年度「人権に関する市民意識調査」において、性的少数者の人権上の問題に関する質問についてはお聞きしていますが、「LGBT」の言葉に対する認知度やそのイメージなどを具体的に聞く機会がなく、大変参考になりました。

今回いただいたアンケート結果を今後の性的少数者等支援事業の施策や、令和3年度に予定している「横浜市人権施策基本指針」の改訂をする際に参考とさせていただきます。

担当：市民局人権課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。